

〈大学 報告〉

激動の夏インターンシップ実施まで

「Y大学：就職支援室 室長」

3月1日に予定していた学内合説は直前に中止。3月のインターンシップも中止。卒業式も入学式も集合実施はなく、4月からの講義の多くはオンラインとなりました。このような状況にあっても、外出さえもままならない状況であっても就職活動は動いていました。就職支援室では急遽webセミナールームを設置しました。「学生のために」と地元の企業様から寄贈いただいたパソコンでオンライン就職相談・面接練習をはじめたのが4月の下旬。動画を提供いただき学内web合説を実施したのもこの頃です。何もかもはじめての経験で、あたふたの年度始めでした。

インターンシップはどうする？ 例年は5月の連休前後に山口県インターンシップ推進協議会の説明会を開催し、5月下旬に県外も含めて全学インターンシップの説明をしていた本学にとって、今年は実施できないかも、との空気が蔓延していたことを思い出します。県外では夏インターンシップ募集が中止となる情報も入ってきていました。就職ナビには実施未定でエントリーだけを受け付ける会社が多かったように記憶しています。山口県も5月からの受付を見送ったことから、学生たちには待つておくように伝えていました。

学びを止めない。困難ななかにあっても、学び続けることは大切です。直接対面はできないけれど、録画配信で授業を実施したり、電子メールでキャリア学習の情報を提供したりと、できることをやっていた時期に、山口県インターンシップ推進協議会において、夏インターンシップの実施に踏み切っていただきました。本当にできるの？ との不安がありました。おそらく学生たちもそうだったかと思えます。そもそも受入先の手があがらないのではないかと皆が思ったでしょう。もちろん各社にはそれぞれの事情がありますので、すべてとはいかないまでも、思ったより多くの企業・官公庁等が受入表明をしていただきました。こちらも学生広報に力が入ります。オンラインでの説明会を複数回開催。中止となる可能性も説明しながら、インターンシップの意味を話して参加を呼びかけ、きちんと準備をするよう伝える日々でした。

これまで対面指導していたインターンシップ事前研修は、すべてオンライン。Zoomの生配信と録画配信を併用して全員が受講できるようにはしましたが、なにぶん反応がわかりづらく、こちらも不安を抱えながらも送り出したところでした。

山口県の夏インターンシップに参加した学生は161人（昨年度209人）。少なくはなりましたが、学生はみな元気に戻ってきてくれました。よき学びになったものと思います。この経験をこれからの学業と、自身の就職活動に活かしてくれるものと信じています。ありがとうございました。

困難な状況のなかにおいても、学生たちを受け入れていただいた企業・官公庁等の皆さまには、厚くお礼申し上げます。また、山口県インターンシップ推進協議会コーディネーターの皆さまには、ご尽力いただきありがとうございました。これから秋・冬・春とインターンシップは続きます。引き続き素敵な学びの演出を、どうぞよろしく願いいたします。

令和2年度インターンシップを実施して

「G短期大学：芸術表現学科・教授」

本学では、例年前期・後期の通年の授業「インターンシップ」（2単位）を1年生、「キャリア特別演習」（2単位）を2年生が履修し、1年生は8・9月の夏季休業中3日から5日程度、2年生は春休み・夏休み・冬休みの長期休業中に合計で10日以上職場体験を実施してきました。しかし、今年はコロナの影響で4月初めから学生は自宅待機となり、授業が実施できない状況が続きました。インターンシップの履修登録はしたものの実施できるかどうかはわからない不安定な状況で、特に入学して間もない1年生にとっては不安も大きかったことと思います。ようやく5月になって、一部対面授業とオンライン授業、オンデマンドでの授業が再開されました。インターンシップも、山口県インターンシップ推進協議会並びに各企業の皆様のご尽力により、長期休業中以外にも特例措置により申し込み・受け入れを行っていただけることになり全員が実施できる運びとなり一安心しました。ただ、コロナの影響で授業が9月初めまで延び夏休みが大幅に短縮された結果、インターンシップの実習の日程や実習期間が限られ、学生たちにとって実習先選びも大変だったと思います。

しかし、学生たちは厳しい中ではありましたが、実習体験先が決まると電話のかけ方や言葉遣いなど簡単なマナーについての事前研修に意欲的に取り組んでいました。「疾風に勁草を知る」という諺がありますが、コロナという厳しい状況の中にあってもインターンシップだけではなく大学生生活全般にわたって頑張ろうとする姿に感動しました。

その影響もあったのでしょうか、例年、学生のインターンシップ実習先の企業から大学での事前指導について厳しいご指摘を受けることも多々ありましたが、今年はそういった苦情は全くなく学生たちの実習態度について高い評価をいただきました。学生たちは後期の授業で、報告書の作成、実習のプレゼンテーションを行っています。いずれの学生のレポートやプレゼンの報告も一生懸命にやり遂げた自信と成長の証を見ることができ、大変うれしく思いました。とは言うものの、アルバイトをしたこともなく、初めての職場体験だった学生も多く、おそらく事業所の方々には色々ご迷惑をお掛けしたのではないかと拝察し恐縮しております。

本学の学生は、やや内弁慶なところがあり、一歩外に出ると思うように自分を表現することが苦手な学生が多く、その壁を超えることが課題の一つでしたが、この様な学生にとって職場を直接体験できるインターンシップは、大学の授業では身に付けることが難しい、多くのことを学ぶことができる絶好の機会であったと思います。企業の方々にとっては、未熟な学生を受け入れることは大きな負担だと思いますが、「将来のある若者を育てる」という理念のもと多くの企業が賛同され、学生を積極的に受け入れ、熱心にご指導していただきましたことに対し心から感謝申し上げます。

おわりに、本年度のインターンシップにご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様を始め、直接ご指導いただきました各事業所の関係者の皆様に重ねて厚くお礼申し上げます。

変動する社会におけるインターンシップの位置付け

「K大学：学生部就職支援部門・主任」

この夏、本学からは58名の学生が山口県インターンシップ推進協議会のインターンシップに参加しました。コロナ禍の中で、学生の学びのため受入れに御協力いただきましたインターンシップ推進協議会及び受入事業所の皆様にお礼を申し上げます。

本学では、インターンシップ推進の取組として、全学教育科目「インターンシップ」を開講し、山口県インターンシップ推進協議会夏のプログラムに、正課（履修登録あり）43名、課外（履修登録なし）15名の学生が参加しました。本学の授業「インターンシップ」では、教育的効果の高いインターンシップを目指し、事前事後指導に重点を置き、取り組んでいます。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべてオンラインでの授業となり、例年と様相がまったく変わってしまいました。しかし、授業担当の教授のサポートをしながら、教職協働により、授業内容を適宜変更しながら行うことができました。そして、マナー講座等も講師の先生にオンラインで開催していただき、時勢に合わせた事前指導を行うことができました。

事後指導としては、インターンシップ報告会を開催しました。例年ですと対面でグループに分かれて体験発表を行います。今年はこちらもオンラインでの開催となりました。学生はオンライン上で4名程度のグループに分かれて、体験報告や質問をしていました。パワーポイントの資料を基にそれぞれの就業体験の説明や、今後の大学生活での行動目標を表明していました。

レポートや報告会の内容を見てみると、社会人として必要な能力や今後身に付けたいこととして、「コミュニケーション能力」や「積極性」、「相手の気持ちを考えること」、「対応力」、「適応力」等が挙げられました。受入事業所の皆様が様々なことに配慮されて日々の業務に当たられていることを就業体験の中で感じたのだと思います。

オンラインでのやり取りでは、今後取り組みたい課題も見えてきました。御存知のとおり、オンラインでは資料を画面に映し出しながら説明できる他、様々な機能を使って、個別のやりとりも可能です。その反面、視聴している学生の反応がわかりにくい時があるため、本当に学生にこちらの説明が伝わっているかは判別しづらい時もあります。また、グループワークでは慣れていない学生もいて、時間が超過したり、沈黙が続いている様子も窺えました。今後主流になるかもしれないオンライン上での就活に向けて、意思疎通の方法や自分の見せ方など、対策の必要性を感じました。

現在、私たちはコロナ禍により時代が大きく変わる過渡期にいます。就職活動においてもどんな影響をもたらすか未知数です。大きな変革期の中で就職活動を迎える学生は漠然とした不安を抱えていると推察します。そのような時には、インターンシップ等をとおして、人と人との交流機会を積極的に増やし、コミュニケーションを図って不安を解消して欲しいと思います。そして、柔軟な対応力でしなやかに難局を乗り切る術を身に付けて、就職活動につなげて欲しいと願っています。

インターンシップ実施報告書

「B大学：大学事務局」

1. 本学での取組み

本学のインターンシップは、学生の自主性を重んじた取組みを行っています。また、就職に向けた必修授業であるキャリアデザインにおいて、インターンシップの重要性を説明するとともに積極的な参加を指導しています。同時に、年間合算で10日間以上のインターンシップについて、単位認定の取り扱いも実施しております。

2. 本年度のインターンシップについて

本年度のインターンシップに関しては、新型コロナウイルスの影響によりインターンシップへの受け入れ企業が少なくなると学生が不安になる中、多くの事業所がインターンシップの場を設けてくださり、学生が例年よりも積極的に参加する姿勢が伺えました。

3. 学生の声

事業所ごとに施設や会社に合った新型コロナウイルスの感染防止策を取りながら業務に取り組んでおり、状況に応じて臨機応変に対応する姿勢を今後心掛けたいという感想や、チャットアプリを用いる時代に応じた業務に困惑する感想等がありました。

4. 要望等

- ・職員や学生、事業所担当者が次にどのような手続きを踏めばいいのか不明瞭な点多々あったため、できるだけ簡素かつ定型化された対応ができるようにしてほしいという意見があった。
- ・メールやFAX等連絡手段を分断させるのではなく、企業情報等の連絡手段を統一してほしい。

5. 所感

今後、チャットアプリ等での面接試験や企業説明会が主流となる時代が来るため、事業所担当者と学生が直接顔を合わせ、事業所の特色や業務、内装等を知ることできるインターンシップ等の機会は就職活動において非常に重要な役割を果たすと感じております。学生が心身ともに成長すると同時に、学生の可能性を広げる取り組みを今後も継続していただきたいと思っております。

最後になりましたが、学生の受け入れにご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

以 上

〈大学 報告〉

本校におけるインターンシップへの取り組み

「S 大学校：学生部・主任」

本校は、水産業を担う人材の育成を図ることを目的とした高等教育機関です。

インターンシップは、学生の就業意識を高め進路決定に役立てることを目的に、単位認定ができる授業科目型や単位認定のない自己開発型が実施されています。

インターンシップ先の業務に従事することで、本校で学んでいる知識の有効性を確認し、仕事に対する理解、さらには職業意識の向上や学習意欲の喚起を目標としています。

例年のインターンシップは、夏休み期間中などの学生休業日に実施され、船舶職員を志望する場合は4年次に、陸上の企業を志望する場合は3年次に行いますが、令和2年度は春先からの新型コロナウイルス感染症の影響からインターンシップの募集の動向が明確ではありませんでした。

また、コロナ禍にあっては、必要な授業日数を確保するために、夏休み期間を短縮するなどの対応により、インターンシップに参加出来る日程が限られましたが、そのような状況の中でも8名の受講があり、うち4名が山口県インターンシップ推進協議会でお世話になりました。

私が所属する学生部は、主に行政機関などの公募型インターンシップに対する窓口として、その募集要領に沿った学生からの申込みや受入先からの決定通知、インターンシップ終了後の報告書提出などの事務処理に加え、ビジネスマナーセミナーを行っています。

学生が所属する学科では、企業等の募集に対する応募の手続きやインターンシップを受講する心構えなどの指導を行っています。

学生から提出のあったインターンシップ報告書の内容からは、しっかりとした成果が伺えます。実際に業務に触れることで漠然とした組織や業務のイメージがより現実のものとして理解できており、体験後の就業意欲も高まっているようです。

年々、インターンシップを実施する企業等が増え、その募集内容は日数や中身などが多様化していますが、本校は、教育の一環として有効なものを学生に提供しています。その点、山口県インターンシップ推進協議会では、大学側が求めるきちんとした就業体験を実施する企業をコーディネートしていただけるので、学生に安心して勧めることが出来ました。

最後になりましたが、受入事業所の方々や山口県インターンシップ推進協議会の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。